



学校だより

横浜市立秋葉中学校

令和8年6月3日発行

電話 811-6773 FAX 813-9438

四つの目を養う

校長 柿崎 順子

先月、5月16日から18日まで、私は3年生と一緒に修学旅行に行ってきました。初日の奈良薬師寺でお話をしてくださった僧侶の方からも、二日目、班ごとにお世話になったガイドさんたちからも、生徒たちがしっかりとした態度で話を聞き、行動している姿に対して、おほめの言葉をいただきました。

続いて、5月20日は1年生の校外学習が行われました。1年生はファシリテーターの方の指導の下、課題に取り組むというPAAに取り組みました。こちらでも、「どの活動にも一生懸命取り組む、とても素晴らしい生徒さんたちですね」とおほめの言葉をいただいたと聞いています。

2年生は、5月22、23日で自然教室に行ってきました。同行した副校長の話によると、これまで積み重ねてきた防災学習を実体験と結び付け、野外炊事では牛乳パックで作ったお皿とスプーンを使ってカレーを食べたそうです。富士山レーダードーム館や富士山世界遺産センターでは富士山の噴火について学び、青木ヶ原樹海の散策や酪農体験ではガイドさんや牧場の方のお話にしっかりと耳を傾けながら、自然との共生の大切さを感じている様子が見られたとのことでした。

5月の校外行事はどの学年も、大きな成果を収めることができました。しかし、だからこそ次のレベルアップを期待して、修学旅行の解団式では、「目を養ってほしい」という話をしました。

自分だけではなく、「周りを見る目」、目の前のことにとどまらず、「先を見通す目」、そして、やりっぱなしにせず「振り返る目」です。

今回はそれに加えて、もう一つの目、「自分を俯瞰する目」について触れたいと思います。

先日、現在メジャーリーグで活躍している、佐々木選手、大谷選手、ダルビッシュ選手の共通点について書かれた記事を読みました。彼らに指導者として携わった吉井理人氏は、3人に共通する点として、「好奇心や向上心が強く、主体性をもって、自分の意思や判断で物事に向き合うこと」を挙げていました。

さらに、「主体性は個人の資質によるのでは…」という記者からの質問に対して吉井氏は「主体的な思考は鍛えることができる」「まずは、自分を知ることが一番のポイント」「『私は』ではなく『吉井は』と俯瞰した視点で振り返る。できたこと、できなかったことが言語化できるようになれば、自ら解決策を見いだせるようになる」と語っていました。

「周りを見る目」、「先を見通す目」、「振り返る目」、そして「自分を俯瞰する目」これら四つの目を、私たち大人も養いながら、子どもたちにも身に付けさせていきたいと考えています。